



# フジタガンカニューズ

Vol.137 2022.2.22



## 眼科とアトピー性皮膚炎のタダならぬ関係③

年末からの新型コロナ感染者数はとても多い数となり、生活の様々な部分に影響があった方も多かったかと思えます。先週をピークに新規発症の数は減少傾向ですが、これまでに感染した患者さんの治療等が蓄積する為、医療体制が落ち着くにはもう少し時間がかかると思えます。ですが、とりあえずは少し明るい兆しがあると言えます。新型コロナ感染症が国内で流行し始めてから約2年が過ぎました。ワクチンや治療薬の開発など、当初の状況に比べれば対策が取れて来た事は間違いありません。そもそもはマスクも消毒液も品切れでしたからね…。

感染が拡大する時期についても凡そのパターンがわかってきた様に思えます。年末年始と春、お盆の時期に流行があるんですね。その理由は明らかではありませんが、いわゆる「学校がお休み」の時期の近辺。冬休み夏休み、そして新入学のシーズンです。基本は「帰省シーズン」という感じでしょうか？やはり人間の移動が多い時期に感染が拡大しやすいと言えるのかな？と。そしていわゆる旅行というよりは移動先で色々な人物と接触がある(特にマスクを外す接触)場合。いわゆる観光旅行では旅先でそうした接触は少ないですよ？帰省だと家族や友人に会ってマスクを外した接触の状況があり得ますし、春の新入学や職場の異動などについてもやはりマスクを外した接触の機会が多いのかな？と(歓送迎会も含まれますよね)。という事は…そうしたパターンを認識して、そうした時期の感染拡大に注意すれば？実は感染の拡大が防げるのかも？しれません。

また、ワクチンと治療薬については一定の効果が期待できる薬物が開発はされました。後は安定供給の為の増産が必要で…そうなってくるとやはり外国産の物を頼み込んで輸入するというよりは、国内製造が可能になれば安定して十分な供給量を期待できるような気がします。

当初、謎の感染症として皆さんに恐怖を植え付けた新型コロナウィルス感染症ですが、こうして話を整理してみると随分と対応が出来てきているように感じます。もちろん、まだ「これでもう安心」という段階ではありませんが、今回のパンデミックが収束に向かい始めているという事は事実と考えて良いのではないかと…個人的には期待しています。

前回のフジタガンカニューズでもお知らせしていますが、現在八王子市では新型コロナワクチンの3回目の追加接種が行われています。八王子市民の方の3回目の接種について、詳しくは市のHPをご覧ください。

<https://www.pref.niigata.lg.jp/site/shingata-corona/3kaime-wakutin.html>

お住まいが他の居住地の方は当該市町村の情報を参考にして頂けたらと思います。

今月のフジタガンカニューズは先月に続いてアトピー性皮膚炎と眼科の関連に関する内容です。それでは引用の文章の続きをご覧ください。

@@

治療は抗アレルギー薬やステロイド薬の点眼を行いますが、目の表面の治療とともにまぶたの皮膚炎もしっかり治療することが大切です。症状が重い場合は、ステロイド懸濁液を

結膜下に注射したり、免疫抑制剤の併用や乳頭外科的切除、角膜掻爬を行うこともあります。ステロイドの投与が長期になると、緑内障、白内障、感染症などの副作用がおこることがありますので、定期的を受診することが必要です。



アトピー性角結膜炎の患者さんの多くはダニ過敏感症なので、住環境からダニを排除することも非常に大切です。

## 5.角膜の変形に影響？ 円錐角膜の合併



円錐角膜は、両眼の角膜の真ん中より少し下が薄くなり円錐上に前に突出するために不正乱視になる、非炎症性の疾患です。思春期に発症して徐々に進行しますが、原因はわかっていません。アトピー性皮膚炎の患者さんに発症する頻度は0.5%程度ですが、一般人口と比較すると10倍以上の高率です。円錐角膜の患者さんには始終目をこする動作がみられ、しかも利き手と同じ側の目が早く発症したり、あるいは重症になったりするといわれます。慢性的な目のかゆみのため始終目をこするという物理的的刺激によって角膜実質が薄くなるのが、発症の一因になっているという見方が有力です。@@@@@@今月はここまで、続きは次号をお楽しみに！

### 今月のお知らせ

いよいよ花粉症シーズンですね！治療ご希望の方はお申し出下さい<(\_)>



<http://www.fujita-ganka.com>

FUJITA-EYE-CLINIC  
**藤田眼科**  
エフ・ビジョン(コンタクトレンズ販売)  
**F-Vision**

042 (645) 0575  
042 (642) 2911